

2020年1-3月期1次QE(5月18日公表予定) の対応について

令和2年4月

統計委員会国民経済計算体系的整備部会

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

1. 季節調整におけるダミー変数処理

- 2020年1-3月期については、新型コロナウイルスの影響により、通常の季節パターンと異なる大きな動きが生じる可能性が高い。そのため、季節調整値の歪みを除去するため、公需を除く民需(12系列)・外需(6系列)の全ての系列の季節調整を行うにあたり、ダミー変数を入れて処理(異常値処理)を行うこととしたい。

※なお、リーマン・ショックの際、こうした対応を行わなかったため、連続的な一定方向の事後的な改定が数四半期続いた。

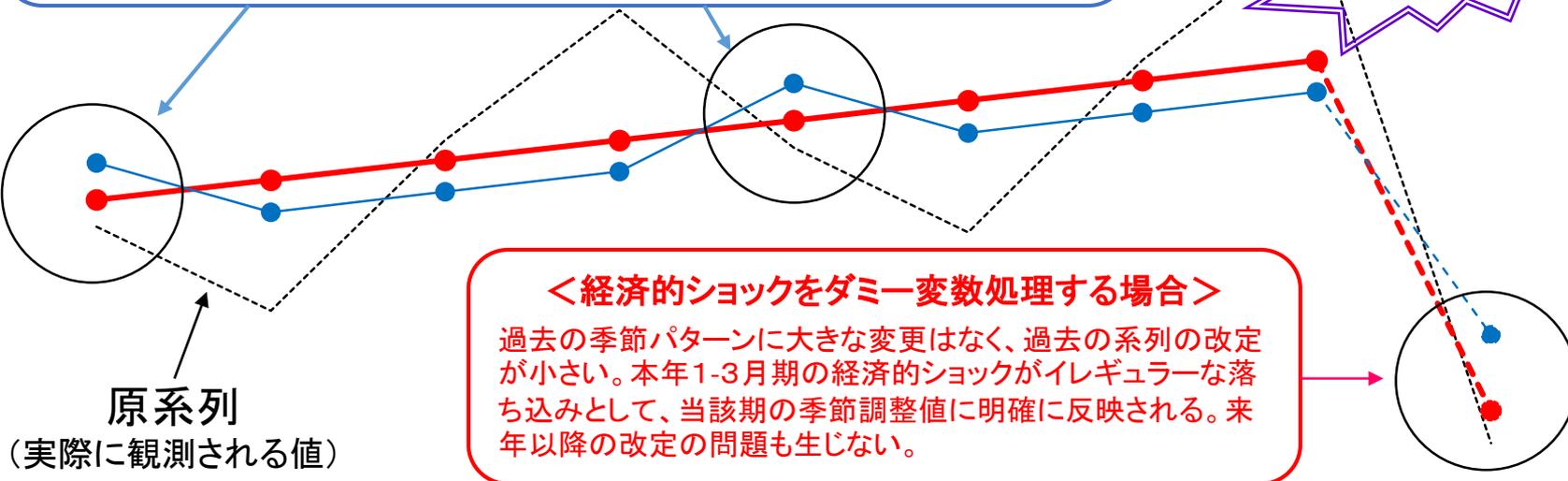
- 上記は速報推計段階の暫定的な処理であり、データが整い有意性の有無について安定的に結果が得られた時点で、ダミー変数を残すか否かについて検証し、結果を部会にご報告したい。

※1-3月期については、昨年の部会の議論を踏まえ、国内家計最終消費支出のうち非耐久財について、うるう年調整も実施する。

<経済的ショックをダミー変数処理しない場合>

毎年1-3月期が季節パターンで減少する傾向を持つようになったと認識され、過去も含め1-3月期が押上げ(その他の期が押下げ)られる方向に改定される。(注)
しかし、来年以降平常に戻れば、その季節パターンはやはり強くないとの認識に戻っていき、1-3月期が再び押下げ(その他の期が押上げ)られる方向に改定されていく。

大きな経済的ショック



<経済的ショックをダミー変数処理する場合>

過去の季節パターンに大きな変更はなく、過去の系列の改定が小さい。本年1-3月期の経済的ショックがイレギュラーな落ち込みとして、当該期の季節調整値に明確に反映される。来年以降の改定の問題も生じない。

1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
T				T+1				T+2

(注) 上図はイメージを示すものであり、ダミー変数処理しない場合の改定の方角については、実際の数値によって変わり得る。

2. 基礎統計が存在しない3月分データの処理

- 通常、1次QEの供給側推計時に、利用する基礎統計の3か月目のデータが公表されていない場合には、基礎統計の最初の2か月間(1か月目と2か月目)の前年同期比や、基礎統計の前年の2か月目と3か月目の関係性等を用いて、3か月目の値を推計している。
- 2020年3月については、新型コロナウイルス感染症の広がりによる外出自粛等の影響により、1月、2月と大きく異なるトレンド、過去とも大きく異なるトレンドでの動きが予見される。
- 特にサービス分野(交通関係、飲食、宿泊サービス等)は、主に、「サービス産業動向調査」(総務省)、「特定サービス産業動態統計」(経済産業省)で推計しており、1次QEでは3か月目のデータが得られない。(本年3月速報値の公表予定は、前者が5月29日、後者が5月14日。)
- そのため、3月値については、推計時点で利用可能な業界統計・業界大手企業のデータ等を用いて推計を行うこととしたい。
※東日本大震災時(2011年1-3月期)も同様の処理を実施。
- なお、業界統計等を利用して、可能な限り経済状況を反映しようと試みるが、2次QEで実際に公的統計(「サービス産業動向調査」、「特定サービス産業動態統計」等)を反映すると一定の改定が生じる可能性に留意が必要。
- 推計方法の変更については、4月下旬を目途に内閣府HPで事前アナウンスを行う。

< 推計方法の変更例 >

品目	対応方針
交通関係	主要各社の利用客数から推計
飲食業	業界統計を用いて推計
宿泊サービス	観光庁取りまとめデータから推計